

SAMPLE

Soroban11111

そろばん式暗算 STUDIO

かけ算

Ver.1.01

SAMPLE

内容

# SAMPLE

はじめに	3
かけ算は簡単です	3
大切なポイントは？	3
かけ暗算にも対応しています	3
1F: 2桁×1桁	4
1F) 基本パターン	4
1F) 二つ目の九九の答えが1桁の場合	5
1F) 二つ目の九九の答えが0で終わる場合	6
1F) かけられる数の最後に0がつく場合	7
1F) 一つ目の九九の答えが0で終わる場合	8
1F) 答えに0をいくつ付けるのか？	9
1F) 一つ目の九九の答えが1桁の場合	10
1F 補足) 1桁×2桁の場合	11
2F: 3桁×1桁	12
2F) 基本パターン	12
2F) かけられる数の中に0がある場合	13
2F) かけられる数の最後に複数の0がある場合	14
2F) 答えに0をいくつ付けるのか？ Case2A	15
2F) 答えに0をいくつ付けるのか？ Case2B	1
3F: 2桁×2桁	1
3F) 基本パターン	17

# SAMPLE

SAMPLE

3F) かける数の最後に0がつく場合 .....	18
3F) かけられる数の最後に0がつく場合 .....	19
3F) かけられる数とかける数の最後に0がつく場合 .....	20
4F: 3桁×2桁 .....	21
4F) 基本パターン .....	21
5F: 2桁×3桁 .....	22
5F) 基本パターン .....	22
6F: 3桁×3桁 .....	23
6F) 基本パターン .....	23
6F) かける数の中に0がある場合 .....	24
7F: 4桁×2桁 .....	25
7F) 基本パターン .....	25
8F: 2桁×4桁 .....	26
8F) 基本パターン .....	26
参考1: 答えは何桁になるのか? .....	27
答えは何桁になるのか? .....	27
答えが最初に十の位とした定位点から始まっている場合 .....	27
答えが最初に十の位とした定位点から始まっている場合 .....	27
参考2: 小数のかけ算 .....	28
整数のかけ算ができれば簡単です .....	28
方法1) 小数点以下の数字の数を数える .....	28
方法2) 整数部分の桁数を判断する .....	28

SAMPLE

## はじめに

# SAMPLE

かけ算は簡単です

かけ算は簡単です。なぜなら、かけ算は九九をずらして足すだけだからです。ですので、九九と足し算がしっかりできれば、かけ算は恐れるに足りません。しかし、九九が覚えられていなかったり、足し算が苦手だったりすると、かけ算は途端に難しいものとなります。もし、九九や足し算に不安があるのであれば、かけ算を始める前にまずは九九と足し算をしっかり学ぶことをお勧めします。

## 大切なポイントは？

このテキストはたくさんの方から構成されています。しかし、実は1Fの基本パターンと3Fの基本パターンさえ覚えてしまえば、それだけでもかけ算はできてしまいます。逆に言えば、この2か所だけは絶対に外せない大切なポイントとなります。

## かけ暗算にも対応しています

そろばんのかけ算のやり方はいくつか種類があります。他のそろばん教室ではそろばんと暗算で違うやり方を指導しているところが多いようです。ですが、当教室ではそろばんも暗算も同じやり方で指導しています。そして、このテキストで紹介しているかけ算のやり方は当教室において指導している内容(2016年5月時点)をほぼ全て載せています。そのため、このやり方でかけ暗算もできてしまいます。小数点の計算など授業では行っていない内容も載せてあります。

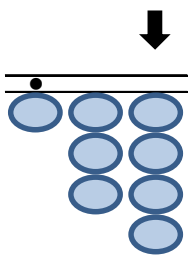
# SAMPLE

1F: 2桁 × 1桁

# SAMPLE

1F) 基本ルール

ここでかけ算の最も基本で最も大切なルールを覚えます。これを覚えてしまえば、かけ算は7割方理解したも同然です。

 <p><math>67 \times 2</math></p>	<p><math>67 \times 2 =</math>という問題で考えます。「<math>2 \times 6 = 12</math>」、「<math>2 \times 7 = 14</math>」の順番で九九を唱えながら足し算をしていきます。</p> <p>かける数が「2」なので2の段を使います。2の段を使うと意識したら、あとはかけられる数の「67」だけを見て解いていきます。九九を唱える向きは「<math>6 \times 2</math>」ではなく、「<math>2 \times 6</math>」で唱えるようにしましょう。次の「<math>2 \times 7</math>」を「<math>6 \times 7</math>」と唱え間違える原因になります。</p>
	<p>「<math>2 \times 6 = 12</math>」の「12」をそろばんに置きます。初めは適当な定位点(黒丸)の桁(赤矢印)を十の位とします。</p>
	<p>かけ算では十の位を1回ずつずらしていきます。そのため、さきほど一の位だった桁(赤矢印)が次の十の位となります。ここに「<math>2 \times 7 = 14</math>」の「14」を足します。</p> <p>12を置いた時、指をそのまま一の位(2のところ)に残しておくと、次の十の位が分かりやすくなります。</p>
	<p>使った桁(黒矢印)までを答えとします。そのため、答えは「134」と求まります。</p> <p>使った桁がどこまでか意識しておかないと、末尾に0がつく問題で答えの桁数を間違える原因になります。</p>

ここに出てきた大切なルールは以下の3つです。

- 九九はかける数の段を使い、かけられる数の前から順に唱える。
- 最初の十の位は定位点で、その後は一の位だったところが次の十の位になる。
- 使った桁までを答えとする。

# SAMPLE